

議会だより

2012.1.30

発行：福島県西会津町議会

編集：議会広報特別委員会



にしあいづ

No.116



年頭のごあいさつ

明けましておめでとう
ございます。

昨年は震災、原発事故
等いろいろなことがあり
ました。

今年は、4月からデマ
ンドバスの運行、小中学校
の統合と新たな取組みが
実施されます。

いろいろなとわからない
ことが出てくると思いま
すが、わかりやすく、そ
して読みやすい議会広報
を目指し、町民の皆様にお
知らせしてまいります。
よろしくお願いいたします。
の申し上げます。

西会津町議会一同

■ 12月議会定例会の内容は 2

○ 公の施設の管理に係る指定管理者

14施設中7施設を修正案で可決 2~3

○ 常任委員会管外調査報告 5

■ ここが聞きたい！一般質問 10人が登壇 6

■ 第9回議会臨時会報告 11

■ 山登りに夢中！小野木麗子さんにインタビュー 12

指定管理者の指定

7施設を修正案で可決!!

12月議会会定例会会報出口

平成23年12月議会定例会を12月9日から15日まで、7日間の会期で開きました。

提出された議案は、暴力団排除条例やデマンドバス運行条例の制定、条例や町民バスの運行条例の改正、一般会計等補正予算、公の施設の管理にかかわる指定管理者の指定など36件で、29件を原案どおり、7件を一部修正し可決しました。
また一般質問では、10人の議員が登壇し、町の考えや対応を問いました。



本定例会には町側から、平成23年度末で指定期間満了となる町の14施設の指定管理者の指定についての議案が提出されました。

指定管理者の指定についての14議案のうち、7議案について、荒海清隆議員ほか6名の議員の連名で修正案が提出され、原案と修正案を合わせて審議を行いました。

審議の結果、7施設を原案どおり、7施設を一部修正の上、可決しました。

原案どおり可決した施設は、林業研修センター（町森林組合・5年間）、老人憩の家（町社会福祉協議会・5年間）、温泉健

康保養センター、森林活用交流促進施設、さゆり公園、ふれあい交流施設、地域資源活用総合交流物産館（いずれも町振興公社・3年間）の7施設です。

また、指定の期間を5年から3年に修正し可決した施設は、介護老人保健施設、温泉リハビリプール、介護センター、地域ふれあいセンター、高齢者グループホーム、野沢保育所、へき地保育所（いずれもにしいづ福祉会・3年間）の7施設です。

※指定管理者制度とは…

町が所有する施設の管理を民間の団体等に任せる制度。平成15年の自治法改正で、公共団体や出資団体でない民間の団体等にも任せられるようになりました。

審議の結果

- ① 林業研修センター
（原案）
 - ・全会一致で可決
- ② 老人憩の家
（原案）
 - ・全会一致で可決
- ③ 介護老人保健施設「憩の森」
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ④ 温泉リハビリプール
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ⑤ 介護センター
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ⑥ 地域ふれあいセンター「ひだまり」
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ⑦ 高齢者グループホーム「のぞみ」
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ⑧ 野沢保育所
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決
- ⑨ へき地保育所
「芝草・尾野本・群岡」
（修正案）
 - ・賛成7、反対5で可決

公の施設の管理に係る 14施設中

主な施設



①



②



③



④



⑤

施設名及び指定管理者

- ① 林業研修センター（町森林組合）
- ② 老人憩の家（町社会福祉協議会）
- ③ 介護センター（にしあいづ福祉会）
- ④ 温泉健康保養センター（町振興公社）
- ⑤ 地域資源活用総合交流物産館（町振興公社）

質疑

長谷沼清吉議員

全国的に見て、47%の施設が5年間の指定期間だとの説明であったが、この数字は3年前も同じである。今回この数字をもとに5年間としたとするならば、説明不足である。

3年で中間評価をするということだが、その内容は。

にしあいづ福祉会と情報の共有を図るとのことだが、どのように図るのか。

にしあいづ福祉会の決算の報告などは、法に則ってやっていると思いますが、町ではどのような認識をしているのか。

副町長

期間は、制度上の定めはない。今まで3年間の指定でやってきたが、人材の確保と育成、サービスの向上には、長い期間が必要であると感じ、今回5年間で指定をした。中間評価は、今回、団体側に出した課題について、項目ごとに評価をしていく。

福祉会との情報共有は、担当者レベルの定期的な話し合いの場を設ける。

健康福祉課長

福祉会の決算の状況は、町でも入手し承知しているところであるが、施設間や会計間の人件費のやり繰りが解りにくいので、さらに詳しい説明を求め

修正案の説明

荒海清隆議員

介護老人保健施設、温泉リハビリプール、介護センター、地域ふれあいセンター、高齢者グループホーム、野沢保育所、へき地保育所、計7施設の管理に係る指定管理者の指定についての一部を修正する。

これまで3年間だった指定の期間を5年間とすることに明確な理由が見出せないため、指定の期間について、「平成24年4月1日から平成29年3月31日まで」「平成24年4月1日から平成27年3月31日まで」に修正する。

討論

原案に賛成

三留正義議員

渡部 憲議員

伊藤一男議員

猪俣常三議員

にしあいづ福祉会については、管理運営は安定している。また指定の期間は、効率的な管理運営や人材育成、指定管理に係る経費削減につながることから5年が望ましい。

修正案に賛成

長谷沼清吉議員

にしあいづ福祉会については、緊張感を持って経営にあたってほしい。指定の期間は、今まで欠けていた町との意思の疎通や町が求める会計決算報告のあり方などをきちんとしていくためにも5年間では長い。

⑩ 温泉健康保養センター「ロータスイン」

（原案）

・賛成9、反対2で可決

⑪ 森林活用交流促進施設「さゆりオートパーク」

（原案）

・全会一致で可決

⑫ さゆり公園

（原案）

・全会一致で可決

⑬ ふれあい交流施設「フレンズワールド」

（原案）

・全会一致で可決

⑭ 地域資源活用総合交流物産館「よりっせ」

（原案）

・全会一致で可決

条例の制定・改正・廃止

本定例会には、町側から条例の制定、改正及び廃止の議案が10議案提出され、審議の結果、いずれも全会一致で原案のとおり可決しました。

町暴力団排除条例の制定
暴力団に対する町や町民の役割などを規定した条例を制定しました。

町デマンドバス運行条例の制定
4月から運行するデマンドバスの利用方法や使用料を規定した条例を制定しました。

議会議員の議員報酬及び費用弁償条例の一部改正
議会議員の報酬額を日割り計算とする規定や支給制限を新たに規定するための条例改正です。

職員の給与に関する条例等の一部改正
人事院及び県人事委員会勧告に準じ、40歳以上の職員の給与を0.23

%引き下げするための改正です。

町税条例の一部改正
不申告に対する過料の引き上げや、寄付金の税額控除の適用額を引き下げる改正など、地方税法の改正に伴う改正です。

町民バス運行条例の一部改正
デマンドバス運行に伴う、運行路線や使用料の改正です。

◆質疑
多賀剛議員
デマンドバス運行のために試行期間を設ける考えは。

企画情報課長
本町は町民バスを運行しており、新たなデマンドバスの試行運行は想定していない。

町立学校教職員宿舎に関する条例の一部改正
今年度末で、新郷・奥川の教職員宿舎を廃止するための改正です。

町スクールバス設置条例の一部改正
4月の小学校統合に伴い、小中学生を専用のスクールバスで送迎することによる、住民混乗を廃止するための条例改正です。

◆質疑
長谷沼清吉議員
災害等、万が一の際にはスクールバスを住民が利用することは可能か。

教育長
有事の際に、その必要性が出てきた場合には、当然あり得る。

町スクールバスの住民利用に関する条例の廃止
デマンドバス運行に伴い、スクールバスの住民利用は行わないとしたことによる条例の廃止です。

町立小中学校寄宿舎条例の廃止
尾野本、群岡、奥川の寄宿舎について、今後、寄宿舎としての利用が見込まれないことからの条例の廃止です。

補正予算

町側から一般会計、特別会計合わせて8件の補正予算案が提出され、審議の結果、いずれの補正予算も原案のとおり可決しました。

一般会計補正予算（第11次）
町職員の給料など調整、後期高齢者医療費療養給付費負担金及び中山間地域等直接支払事業交付金の見込みによる追加計上、子育て支援の拡充を図るため、妊婦及び0歳児から高校生までを対象としたインフルエンザワクチン予防接種事業が新たに計上されました。

◆質疑
清野佐一議員
来年度に予定する工事の伝送路の太さは、本来第2期整備工事で予定していた22スクエアで工事するのか。

建設水道課長
22スクエアで工事する。

特別会計補正予算
町下水道施設事業特別会計など7会計について、給料の調整や今後事業に必要な経費が計上されました。

その他

町ケーブルテレビ高度化第2期整備工事請負契約の変更契約
上谷地区へのケーブルテレビ伝送路を、東北電力の電力線のルート変更に合わせてルートを変更し、来年度工事としたための工事請負金額の減額を全会一致で可決しました。

◆質疑
清野佐一議員
来年度に予定する工事の伝送路の太さは、本来第2期整備工事で予定していた22スクエアで工事するのか。

建設水道課長
22スクエアで工事する。

財産の取得
西会津診療所と群岡診療所に医用画像総合システムを導入を全会一致で可決しました。

介護老人保健施設等施設スプリンクラー設置工事請負契約の締結
消防法施行令の改正に伴う、介護老人保健施設等施設にスプリンクラーを設置する工事の請負契約の締結を全会一致で可決しました。

◆質疑
長谷沼清吉議員
財源の内訳は。

健康福祉課長
補助対象外の雑工事以外は、全額県の補助金である。

教育委員会委員の任命に同意

12月25日で任期満了となる教育委員会委員の任命について、現職の佐藤晃さんの任命に全会一致で同意しました。



佐藤 晃さん
(上野尻)

朝日町は、合併に拠らない単独町政を選択したことにより、町政を進める上で、行政主導型から住民の自主性や主体性が行政施策に反映される体制への転換が強く求められました。

このような中、協働のまちづくりのため、それぞれの地区内で活動している各種団体が一つにまとまった自治振興会の組織化を進めてきました。自治振興会により、地区に一体感が醸成され、その活動を通じて、住民の意識も変わってきているとのことでした。

本町でも地域の工夫・知恵を最大限に生かし、住民自治を強化するための新たな仕組みづくりなど町側の一層の工夫と努力を求めます。

輪島市では、能登半島地震を教訓に、災害に強い安全・安心のまちづくりの実現のため、防災対策に精通した防災士を核とした自主防災組織の結成や自主防災活動にお



輪島市の災害に強いまちづくりを学ぶ

る補助制度の創設など、地域防災力の向上と防災意識の啓発に努めています。

また大規模な自然災害だけでなく、小規模な自然災害にも対応できるよう「輪島市被災者生活再建支援条例」を制定しています。これは一自治体が単独で行うものとしては、全国初の取組みです。

本町でも今回の大震災の教訓を生かし、自主防災組織の結成促進や防災対策事業の強化を図るなど、地域防災力の向上に努める必要があります。

◆自治振興会の組織化

(地域自治区の設置)と協働のまちづくり～富山県朝日町

◆災害に強い安全・安心のまちづくり～石川県輪島市

常任委員会管外調査報告

◆鳥獣被害対策～山形県上山市

◆石綿管更新事業～山形県西川町

◆観光による地域活性化～山形県金山町



金山町の町並み保全の取組みを視察

上山市では、従来の二ホンザル対策にクマ・イノシシ等も加え、行政・農家・市民及び関係団体が「協働」により、効果的で柔軟な対策を推進するため、「鳥獣害防止対策協議会」を設置しました。その中の二ホンザル被害対策では、接近警戒システムとして、発信機等を利用し、サルが一定距離に接近すると、鉄塔から光と音で住民に知らせる取組みをしています。本町でも電気柵など各種の取組みをしています。が、更なる展開を求めます。

西川町は、山形県のはば中央に位置し、水道事業においては本町と同等の規模です。平成7年度より石綿セメント管更新事業を開始し、23年度で終了すること。17年間の長期事業とのことでした。本町の石綿セメント管も更新時期が目前にせまっているので、財源を見据えた長期的な更新計画を樹立すべきと考えます。

金山町は「住み続けた町・誇りを持てる町を目指して」をスローガンに、町固有の町並みや文化・自然を活用し、「観光」から「観交」への町づくりに取組んでいます。最大のポイントは役場付近の町並みでした。昔の町並みの保全や屋根の配色への取組み、更に町内を流れる大堰には錦鯉を放流するなどの取組みがされていました。今後、本町でも地域に残された独自の文化や豊かな資源・資産を活用した地域活性化を望みます。

町政のここが聞きたい 議員は問う 10人が登壇

こんな質問をしました（質問順）

- 猪俣常三議員
 - ①町政の課題について
 - ②協働のまちづくりについて
 - ③災害発生後の環境問題と復旧について
- 伊藤一男議員
 - ①豪雨災害復旧状況について
 - ②商工業の振興について
 - ③町消防関係について
- 長谷川義雄議員
 - ①放射能における環境問題について
 - ②教育環境について
 - ③エネルギー環境について
- 渡部憲議員
 - ①認知症への行政の対応について
- 多賀剛議員
 - ①「健康が一番」のまちづくりについて
 - ②まちづくり提案制度「町長へのおたより」と「町長ブログ」について
 - ③西会津高校の存続について
- 鈴木満子議員
 - ①国際芸術村の8年間の総括
 - ②福島民報新聞に掲載された町長のインタビュー記事について
 - ③透析治療を受けている人に対する町の対応
- 青木照夫議員
 - ①ラジオ放送聴取可能エリアの拡大と効用等について
 - ②排水路の放射能汚染の調査について
 - ③協働のまちづくりについて
- 五十嵐忠比古議員
 - ①中間貯蔵施設の設置について
 - ②原発事故に係る風評被害について
- 清野佐一議員
 - ①平成24年度予算編成について
 - ②安全安心のまちづくりについて
 - ③福祉政策について
- 長谷沼清吉議員
 - ①安全・安心なくらしのために
 - ②新エネルギービジョンについて

問 喜多方市では、高い濃度の汚泥が検出された。本町でも小中学校・保育所等の汚泥調査をすべきと思う。なぜしないのか。

町民税務課長
全ての保育所・小中学校や診療所・公民館等の7つの公共施設、計17施設の側溝や雨水マス等の空間線量を調査した結果は、1時間あたり0.09μSv、21マイクロシベルトで、除染が必要とされる基準の1時間あたり0.23マイクロシベルトを下回っている。従って汚泥の濃度はそれほど高くないと判断できるが、子どもたちのより高い安全性を確保する観点から、1時間あたり0.21マイクロシベルトの野沢保育所、同じく0.19マイクロシ

問 放射能対策の取組みの状況は

答 基準値を下回っているが一部除染をした

長谷沼 清吉 議員

ベルトの野沢小学校、同じく0.13マイクロシベルトの芝草保育所の汚泥については除染をした。

問 放射能に弱いといわれる乳幼児や妊婦にどう対応してきたか。

健康福祉課長
国は、福島県内における児童生徒等が学校や保育所等において受ける線量を、当面、年間で1ミリシーベルト、1時間あたり0.23マイクロシベルトとしている。

本町の空間線量は、県内でも低いですが、今後、専門家による講演会などの開催も検討し、町民の不安解消に努める。



みんなが安全に安心して暮せるように

問 薪ストーブの課題は何か

答 薪の安定供給体制である

問 再生可能エネルギーとして、薪ストーブを

町が普及することにおいての課題は、どのようにとらえているかを問う。

農林振興課長

重要なことは、薪の安定供給体制であると考えられている。

町内の森林資源の活用と、森林整備で発生する間伐材の有効利用を含め、利用者に安定して薪を供給できる体制の確立について、町森林組合などと協議を進めていく。

また、他市町村では市街地で設置した薪ストーブから発生する煙や臭いが問題となっているところもあり、今後、町が導入する薪ストーブについて、実際に使用し検証していく。

問 西会津中学校図書館に新田正夫氏から寄贈

長谷川 義 雄 議員

された本がたくさんあるが、広く町民に周知する考えはないか伺う。

教育長

本町の名誉町民である

新田正夫氏より、7月に図書購入費として200万円のご寄付を賜った。深く感謝をしている。

町では、新田氏の「偉

人の伝記や人物伝を特に選んで欲しい」という意向に沿い、コーナーを設置するとともに本の購入

手続を進めてきた。

今後、ケーブルテレビをはじめ、広報お知らせ版などを通じて町民にお知らせし、広く利用していただくよう努めていく。

いた



新田氏からの寄付により整備したコーナー

問 認知症への行政の対応を伺う

答 つどいの場となるサロンの組織化を進める

渡 部 憲 議員

問 ①自治区地域見守りネットワーク(案)の中に、認知症対策は、基本的には地域における自主的な活動とあるが、運営を支援する行政側の支援協力と対応策を示せ。

②地域に点在する空き家を利用したつどいの場を、各地区の利便性のある場所に提供する考えはないか。

③ヘルパーをつどいの場で、認知症支援に雇用してはどうか。

健康福祉課長

①見守りのネットワークや集いの場となるサロンの組織化を関係団体と連携しながら進めている。

②地域の実情に合わせた活動として、サロンづくりを支援しており、現



須刈ふれあいネットワーク (上野尻)

在、自治区単位や地区単位で開催されている。気軽なお茶飲みや食事会などで、高齢者の閉じこもり予防にもなることから支援していきたい。

③今後さらに認知症予防対策を進めるなかで、安心して暮らすことができる地域社会づくりに取り組む方策の一つとして検討する。

問 さゆり公園の街灯の増設できないか

答 計画的な更新、設置を進める

多賀剛 議員

度において、街路灯の更新や新設を、計4基実施した。新たな街路灯の設置については、今後、公園内を調査し、計画的な更新、設置を進める。

問 まちづくり提案制度によって、町の施策として実現できたものほどれだけあったのか。

町長 プログをやるうとした目的は何なのか。本来想定していた活用ができていないか。

提案内容を全て施策に

盛り込むことは困難であるが、これまで国民健康保険証のカード化や粗大ゴミ収集場所の増加、地域活性化への取組みでは、野沢まちなかの活性化プロジェクトの立ち上げなど約10件の提案が実現してきた。

町長 プログは、本町の魅力を私自身の言葉で町内外の皆さんにPRし、地域の活性化につなげることを目的に取組んできた。最近、更新ができていない状況であるが、努力して更新していきたい。



町民提案により実現した「野沢まちなか再生プロジェクト」

問 本町は、早くから健康に関しての啓蒙活動をしてきた。町民が安心して運動できる環境づくりの観点から、夜のさゆり公園周辺は大変暗く、安心安全、防犯の面からも街灯の設置、増設はできないかを伺う。

町長 プログをやるうとした目的は何なのか。本来想定していた活用ができていないか。

問 国際芸術村事業における、過去8年間の活動及び今後の取組みについて伺う。

町長 プログは、本町の魅力を私自身の言葉で町内外の皆さんにPRし、地域の活性化につなげることを目的に取組んできた。最近、更新ができていない状況であるが、努力して更新していきたい。

今年度の国際芸術村公募展は、北は北海道、南は福岡県の方からの出展があり、出展数は過去最多となった。今後も公募展を維持発展していく。

リトアニア共和国をはじめ、6カ国から延べ10人の外国人芸術家を迎え、創作活動とともに、児童生徒や芸術愛好家などとの交流が図れたことは一定の効果があった。

今後は、国際芸術村の運営を委託しているNPO法人国際芸術村や施設を活用し地域おこしに取組む寺前自然塾、グリーンツーリズム協議会等の関係団体と連携協議を図りながら、地域の活性化事業に取組んでいきたい。

問 国際芸術村の今後の取組みは
答 芸術村を活用した地域の活性化事業に

鈴木満子 議員



過去最多の出展数があった国際芸術村公募展

問 透析治療を受けている人に対する、冬期間の町の対応は。

町長 プログは、本町の魅力を私自身の言葉で町内外の皆さんにPRし、地域の活性化につなげることを目的に取組んできた。最近、更新ができていない状況であるが、努力して更新していきたい。

豪雪で町の交通機関が麻痺し、道路等が閉鎖した場合は、生命に関わる

ことなので、県のドクターヘリの出動を要請するなど、患者が透析を遅滞なく受けられるよう対応したいと考えている。

問 ラジオの受信環境の改善はできないか

答 地上波は山間部が多く難しい

問 地震・津波などの災害時における地域の生活情報入手手段として、地域に開設されたFM放送局の有効性について知られている。NCT放送機材を活用すれば、ミニFM放送局の開設が可能と思うがどうか。

企画情報課長

町としては、町民の安心安全確保のために防災行政無線やケーブルテレビ、携帯電話など、あらゆる手段を講じて対応していく考えである。

ミニFM放送局の開設については、放送範囲が100m程度に限定され、災害時における活用効果は期待できない。

問 まちづくり基本条例が制定されているが、「町民が主役」であることの実感が無い。予算編成、執行に住民の意思が

青木 照夫 議員

反映するには、積極的な情報の提供として、行政からの出前講座が必要ではないか。

企画情報課長

町政懇談会等を積極的に開催しているほか、町長へのお便り等の事業も行っている。



各自治区で開催される町政懇談会

問 柳津町に搬入された下水道汚泥の現状は

答 飛散しない状態で保管されている

猪俣 常三 議員

町長

埋め立てられた汚泥は、50cmほど覆土がされ、飛散しない状態で保管されている。

県、町、業者でそれぞれ空間放射線量等を測定している。

処分場の底には、二重の遮水シートが張られており、漏水を検知するシステムも設置されている。

万一、シートが損傷しても、漏水を防ぐ仕組みになっている。

問 除雪対策について、通勤に支障が無いように体制は万全か。

融雪施設の設置対策や除雪機械の整備・修繕、更新は。

除雪に対する町の助成は。

建設水道課長

冬期間の交通確保に全力で取り組む。

排雪が困難な地区に消雪パイプなどの消雪施設の設置を計画している。

今後の設置については、費用対効果などを検討し対応していく。

除雪機械の整備については、降雪前に点検整備を行っている。更新については、年次計画のもと行っている。

豪雪対策本部の設置時に、高齢者や障がい者などの低所得世帯に対し、除雪費用の一部助成を行っている。今後も継続していきたい。

健康福祉課長



除雪の準備も完了

問 柳津町の産業廃棄物最終処分場に放射性物質を含んだ汚泥が搬入されたが、その現状はどうか。

下水道汚泥は、焼却前より焼却後のほうが、放射性物質が高くなるが大丈夫か。

同処分場の施設の底のビニールに損傷は生じないか。

問 平成24年度の重点施策は何か

答 3つの重点目標の各種施策に取り組む

清野 佐一 議員

問 平成23年は、豪雪や東日本大震災、原発事故による放射能問題、さらには大雨により道路や家屋、農作物などに甚大な被害があった。そこで平成24年こそは平穏であり、活力ある西会津町を期待するが、平成24年度の重点施策は何かを伺う。



グリーンツーリズムで交流人口の拡大を図る

町長 平成24年度の重点施策は、「地域経済の活性化」では、原発事故の風評被害の克服。グリーンツーリズムや教育旅行の推進による交流人口の拡大に取り組んでいきたい。

「人材育成・教育振興」では、西会津小学校新校舎整備事業の推進や将来を担う若者の育成に取り組んでいく。「健康づくりと安全安心の推進」では、高齢者福祉の充実、災害に強い安全安心のまちづくりを推進する。

問 憩の森やさゆりの園などの施設周辺には、以前購入した用地が未利用の状態が残っている。今後、新たな施設建設も含めた利用計画があるかを伺う。

健康福祉課長

現在、具体的な施設等の建設計画は無いが、第5期介護保険事業計画の中で、サービス量の推計やニーズ調査などを踏まえて、施設整備が必要かどうか、また、適地であるかどうかも含めて検討する。

問 商工業振興のための来年度の支援策は情勢を見極めながら、検討していく

伊藤 一男 議員

問 町の商工業を取り巻く経済環境は大変厳しく、景気の低迷や円高に加え、東日本大震災の発生、原発事故による風評被害などにより、売上や受注の大幅な減少などの被害が発生している。そこで、来年度の商工業者への支援方針を伺う。

町長

今年度は震災等の影響で厳しい経営状況を強いられる商工業を支援するため、町ふくしま復興特別資金等信用保証料補助金の創設や、中小企業融資制度資金利子補給事業の下期分の補助率を2分の1から全額に拡充するなど、商工業者の負担軽減を図った。今後、情勢を見極めながら、来年度の支援策を検討していく。

問 新潟・福島豪雨により甚大な被害が発生した。今も災害の爪痕が生々しく残り、大変な状況である。国県への最終的な災害申請箇所と補助災害と認定された箇所数は、

建設水道課長

公共土木施設災害は、申請8カ所全てが認定され、100%の査定率であった。林道施設災害は、7カ所申請し、全て認定

されたが、査定率は95.5%であった。さらに農地災害は40カ所申請し、全て認定されたが、査定率は97%、農業用施設災害も申請した33カ所全て認定となったが、査定率は96.3%であった。なお、本災害については激甚災害の指定となり、国の補助率は増高することとなるが、補助率は今後決定されることとなる。



豪雨による道路の決壊（尾登）

新聞社のインタビュー記事の町長の真意は

新聞記事は全くの誤報である

問 東日本大震災で発生したげれきには、一部で放射性物質を含む可能性がある中、町長は、新聞社のインタビュー記事の中で「市町村は何をすべきかを明確に示してほしい。中間貯蔵施設の設置を前向きに考えている」と答えているが、町長の考え及び真意は。

町長 中間貯蔵施設の設置についての記事は、全くの誤報である。

自然豊かで、どこよりも安心安全な西会津町を、放射能で汚染することは決して考えていない。放射能汚染物は持ち込ませない。施設は絶対に造らせない。改めて私の公約とする。

問 一連の原発事故による風評被害が拡大する中、西会津町の米、野菜

五十嵐 忠比古議員

等の出荷に対する現状と

町の観光への影響及び道の駅よりつせへの来客数への影響は。また、これから風評被害への対策は。

農林振興課長

現在、本町の農林産物の出荷停止・摂取制限はなく、モニタリング検査でも安全性が確認されているが、ソバやキノコなどに風評被害の影響が出ている。

商工観光課長

観光への影響については、原発事故発生から落ち込んだが、9月以降はいく分回復傾向にはあるものの、前年より落ち込んでいる現状である。

風評被害対策として、町オリジナルのハガキを首都圏に送付し、安全安心をPRするとともに、各種イベントに参加し、風評被害の払拭に努めた。



安全安心な本町の農林産物

電子式個人線量計300台などを整備

第9回臨時会云報告

昨年11月10日に、第9回議会臨時会を開会し、一般会計と簡易水道等事業特別会計の補正予算2件と電子式個人線量計300台の購入など、財産の取得の議案3件について審議をしました。

■一般会計補正予算

第10次の補正予算には、町道野沢柴崎線の橋立2号橋の開通記念協賛会負担金と奥川支所及び新郷連絡所の機械警備委託料の総額46万円が追加計上され、審議の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

■簡易水道等事業

特別会計補正予算

簡易水道等事業特別会計の今年度初めての補正予算には、歳入では前年度から繰越金が計上されたほか、歳出では青坂地区飲料水供給施設の取水ポンプ故障に伴う修繕料など206万8千円が計上され、審議の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

◆質疑

荒海清隆議員

橋立2号橋の開通記念協賛会負担金を当初予算で計上しなかったのはどうしてか。

建設水道課長

降雪を迎えてからの記念式典では支障があると考え当初予算の計上はしなかったが、11月末で完成の見込みとなり、今次の補正を提案した。

■財産の取得

4月から運行するデマンドバス3台、同じく4月の西会津小学校開校に伴う、小中学生の通学用スクールバス4台、妊婦や乳幼児、小中学生に貸し出す電子式個人線量計300台を購入する財産の取得議案3件について

◆質疑

長谷沼清吉議員

今回整備したデマンドバスは、全て15人乗りのようであるが、10人乗りという選択肢は無かったのか。

企画情報課長

診療所の開設日には10人以上乗車をしているケースもあり、15人乗りであれば、乗れないといったことが生じないという想定で、15人乗りで整備をした。



購入した電子式個人線量計

このコーナーでは、各方面で活躍されている町民の方々をインタビューを通して紹介します。

今回は、山登りが大好きな小野木麗子さん（真ヶ沢）です。小野木さんは、昨年11月から12月に2週間かけて、エベレストにトレッキングに行ってきたそうです。

—西会津の山はどうですか。

黒沢大滝から木地夜鷹山、飯豊山を眺める鏡山、高陽山、イボ岩などは、素晴らしい町の宝だと思います。

—エベレストに行つて、体験したことは。

エベレストは、日中は秋の山のように穏やかですが、朝晩の寒さは厳しく、暖房や煮炊き等の燃料は大変貴重なものでした。今は、ヒマラヤの白



ヒマラヤの峰々をバックに

プロフィール

住 所：真ヶ沢（奥川）
年 齢：62歳
趣 味：山登り、スキー、合唱

き峰々を思い出しながら、地球温暖化を心配して、省エネに努めています。

—今後、取組みたいことは。

町のグリーンツーリズムで、子どもたちが奥川の豊かな自然を体験できる農家民宿の準備と昨年5月から始めた茶房で、飯豊の里山でゆったりと本を読んだり、景色を楽しみながらのひと時を、より多くの人に味わってもらえるよう努力したいと思っています。

—町議会や町に臨むことは。

町には美しい景色がたくさんあります。「おらが自慢のこの景色」を議会だより等にカラーで載せてほしいです。

奥川の鏡山や弥平四郎からの飯豊山登山道の整備とともに、奥川に温泉を掘って、「山と溪谷と湯の里」として、西会津町を活性化させてほしいです。

—ご協力ありがとうございます。ご活躍を期待しています。

議会の動き

長谷川徳喜議員逝去

このたび、町議会議員として7期25年の永きにわたり、町政の伸展と町民の福祉向上のため、ご尽力され、ご功績を残されました長谷川徳喜議員が、去る12月3日にご逝去されました。享年74歳。



いつもパワフルだった故 長谷川徳喜議員

議会では、各常任委員会委員長や議会運営委員会副委員長などの役職を精力的に務められました。ここに、議会議員一同は謹んで哀悼の意を表するとともに、故人を偲び、安らかにご永眠されますよう心からご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

編集後記

いよいよ、本格的な冬の到来となりました。わが町も昨年は、放射能による風評被害やら、7月には会津豪雨による洪水災害により、未だに町民は苦しめられております。今こそ行政側と議会は、町民の皆さんと手を取り合つて、明日に向かって、勇気と行動力を示すときです。

平成23年12月議会定例会も滞りなく閉会いたしましたので、ご報告いたします。町や議会に対するご意見や要望をどしどしお寄せください。（渡部 憲）

- 編集委員 委員長 鈴木満子
副 渡部 憲
委員 三留正義
猪俣常三
清野佐一